

都市戦略

史上最高のオリンピック・パラリンピック

選手にとっても、世界中から訪れる観客にとっても、最高の環境をつくること。史上最高のオリンピック・パラリンピックを目指し、ハードもソフトも充実を図っていきます。そして忘れてはならないのが、大会開催後の東京の姿です。2020年大会をきっかけに、誰もがスポーツを楽しむ健やかな都市となっていきます。ここからは、そんな大会の成功に向けたビジョンをご紹介します。





政 策 指 針

01

2020年大会の成功に向けた 万全な開催準備とレガシーの継承

選手にとっては、能力を最大限に発揮することができる大会。

観客にとっては、快適に観戦できる安全・安心な大会。

都民一丸となった気運の盛り上げで、最高の大会を開催するとともに、

2020年大会で使われた施設は大会後も大切なレガシーとして

広く長く利用されていきます。

東京の未来

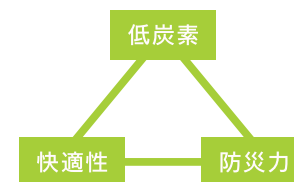
▶ アスリートに最高の環境をお届けする、競技会場と選手村づくり

2020年大会開催時は、選手が最高のパフォーマンスを発揮できる環境が整っています。そして、大会後も競技施設が都民や国民の貴重な財産として、未永く親しまれています。また、選手村では様々な人々が交流し快適に暮らせる、複合市街地が形成されていきます。

▶ 環境を大切にするオリンピック・パラリンピックへ

選手村では、省エネルギー技術の導入や、燃料電池車をはじめとする水素エネルギーの活用が行われ、スマートエネルギー都市※1のモデル実現を目指します。また、マラソンなどの屋外競技の会場では、効果的な対策により、選手や観客が感じる暑さの軽減が図られます。

スマートエネルギー都市



▶ 「オール東京」で、開催気運を盛り上げ

シティ装飾※2などの実施をはじめ、大会や競技種目に関する普及啓発などに一丸となって取り組み、東京全体で2020年大会に向けた開催気運を醸成します。



▶ 首都東京を守る、危機管理体制の強化

民間防犯カメラを活用した「非常時映像伝送システム」の運用や、サイバー攻撃検知システムなどの構築により、様々な脅威から都民生活を守る、安全・安心な環境が整います。



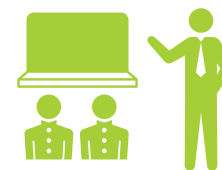
※1 無理のない「賢い節電」を土台として、低炭素・快適性・防災力の3つを同時に実現する都市のエネルギー利用の将来像。

※2 オリンピック・パラリンピック開催都市全体を一貫性のある外観で装飾すること。



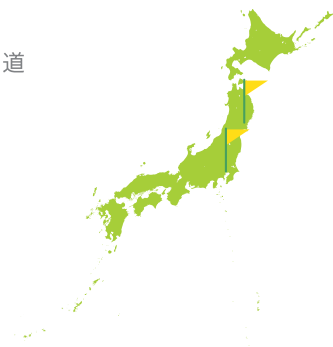
▶文化や教育の面からも、2020年大会を成功へ

都市自体を劇場とした先進的な文化プログラムが実施されていきます。また、全ての公立学校や、私立学校でオリンピック・パラリンピック教育が推進されます。



▶スポーツの力で、被災地の復興を後押し

被災地と東京の子供たちとのスポーツ交流や被災地へのアスリート派遣事業、さらに「未来(あした)への道 1000km縦断リレー」など、スポーツを通じた復興支援の取組が継続されていきます。





政 策 指 針

02

美しく風格があり、誰もが安心して過ごせる バリアフリー環境の構築

東京を、魅力にあふれたバリアフリーのまちへ。

そのためには、円滑に移動できる環境を確保するだけでなく、
思いやりの心を醸成していく取組も欠かせません。

また、世界に誇る歴史や文化が調和した都市景観を次世代へと
継承していきます。

東京の未来

▶ 道路と鉄道駅のバリアフリー化で、移動しやすい東京へ

2020年大会開催時には、競技会場周辺などにおいてバリアフリー化が進んでいます。さらに、交通機関や公共空間などのバリアフリー化も着実に進み、誰もが安全で円滑に移動でき、安心して過ごすことができる魅力ある都市が実現します。

事 項		目標年次	目標値
2020年大会開催時における観光地や競技会場周辺等の道路のバリアフリー化		2020年	完了
駅のホームドア整備	JR・私鉄の1日当たりの利用者数10万人以上の駅 全78駅	2023年度	おおむね完了



▶ 情報バリアフリーや思いやりの心の醸成

地域のバリアフリーマップの作成等、区市町村の様々な取組を支援することで、誰もが必要な情報を手にできる環境になります。さらに、学校や地域でのユニバーサルデザイン教育などにより、思いやりの心も育まれるとともに、障害者等の社会参加も促進されます。



▶ 首都にふさわしい、美しく調和のとれた景観づくり

歴史的・文化的な資源と新たに創出された魅力ある景観が共生し、美しく風格のある景観が形成されます。また、競技会場周辺などでは、電線が地中化され、すっきりした景観が生まれます。





政 策 指 針

03

多言語対応の推進により、全ての外国人が 快適かつ安心して滞在できる都市の実現

2020年大会に向けて、外国人旅行者の更なる増加が期待されています。

多言語対応が進み、滞在中の基本的なニーズが満たされるのはもちろんのこと、
事故や災害の発生時でもスムーズに行動できるような取組が広がっていきます。



東京の未来

▶ デジタルサイネージを歩行空間に設置

2019年度
100基程度



▶ 多言語による診療体制を整備

2020
**全都立・公社
14病院**



▶ 外国人旅行者も安心して滞在できるまちづくり

デジタルサイネージ^{※1}や翻訳アプリなどの新しい技術の活用により、交通機関、飲食店や宿泊施設において多言語に対応した情報提供が行われます。災害や避難に関する情報も表示され、外国人が安心かつ快適に滞在できるようになります。

▶ 誰もが目的地まで迷わず移動できる環境へ

2020年大会の競技会場周辺には、目的地までの経路などを示すデジタルサイネージが置かれます。また、道路や観光地には、英語併記の標識や、ピクトグラム^{※2}による案内サインなどが設置され、誰もが不安なく移動できる環境が整います。

▶ 外国人に対応した医療機関

2020年には、医療情報の提供や診療においても多言語対応が進み、外国人が安心して医療を受けられる環境が充実します。

※1 商業施設や交通機関、店頭、公共空間などで、ネットワークに接続したディスプレイで映像や情報を表示するシステム。

※2 誰にでも伝わりやすい単純化されたデザインの絵文字などにより、情報や注意を表示した視覚記号。



政 策 指 針

04

世界に存在感を示すトップアスリートの育成と スポーツ都市東京の実現

2020年大会は、日本のスポーツが更に活気づくまたとない機会。

都から100名を超えるトップアスリートが大会に出場し、
スポーツ実施率が世界トップレベルとなる70%に達するなど、
障害のある人もない人もスポーツを楽しめるまちになります。

東京の未来

▶ 誰もがスポーツに親しみ、楽しめるまちへ

身近でウォーキングやサイクリングができる環境が整備されるとともに、2020年大会で使用した施設で大会やイベントなどが開催され、誰もがスポーツを楽しめるようになります。また、全区市町村に地域スポーツクラブが設置され、親子で楽しんだり、職場や仕事帰りでのスポーツを楽しんだり、スポーツがライフスタイルに定着していきます。

▶ 都民のスポーツ実施率



▶ ウォーキングしやすい通路を 河川沿いに整備



▶ サイクリングルートを 海上公園内に整備



▶ 障害のある人もない人もスポーツに親しめる社会

障害者スポーツへの理解が進むとともに、障害のある人がスポーツを楽しめる場が拡充されていきます。都立特別支援学校では、障害者スポーツを取り入れた教育・部活動が充実していきます。また、障害者スポーツ指導員などの人材育成も盛んに行われていきます。

事 項	目 標 年 次	目 標 値
「障害のある児童・生徒のスポーツ教育推進校」の指定	2017年度	都立特別支援学校30校
「障害者スポーツ指導員」の資格を持つスポーツ推進委員の配置	2020年度	都内全59地区





都市戦略 1 を知るキーワード

▶ 都独自のメディアセンター

政策指針 01

組織委員会が設置する国際放送センター及びメインプレスセンターとは別に、都独自のメディアセンターを設置し、開催都市“東京”の魅力を全世界に発信していきます。

▶ 人にやさしい環境対策・暑さ対策

政策指針 01

施設整備では、断熱性の高い建材の採用や太陽光発電の導入などにより、省エネルギーと快適性を調和させていきます。また、マラソンコースを含む都道で遮熱性舗装や保水性舗装を導入し、真夏の暑さの緩和も図っていきます。

▶ 万全な警戒体制の構築

政策指針 01

テロなどへの対応策に加え、臨海部の災害発生への対応力も高めていきます。防災機関と医療機関などが連携した特別警戒の実施や、消防救助機動部隊（ハイパーレスキュー）などによる陸・海・空からの警戒体制も整えていきます。

▶ オリンピック・パラリンピック教育の推進

政策指針 01

公立・私立学校で、独自の補助教材を活用したオリンピック・パラリンピック教育を推進していくとともに、大会運営を支えるボランティアマインドも育てていきます。

▶ 積極的なバリアフリーの推進

政策指針 02

生活関連施設などにつながる都道を、2024年度までに新たに約90km バリアフリー化します。また、1日当たりの利用者数が、3,000人以上の駅において、出入口からホームまで段差なく移動できるルートを確認していきます。

▶ 言葉のバリアフリー

政策指針 03

ターミナル駅や空港アクセス駅などの交通結節点における多言語対応を進めていきます。また、外国人旅行者などが効果的に必要な情報を入手できるよう、先端技術の積極的な活用を促進していきます。

▶ 歴史的景観の保全と形成

政策指針 02

浜離宮恩賜庭園のお茶屋群や小石川後樂園の唐門の復元などを進め、歴史的文化遺産を次世代に継承していきます。

▶ トップアスリートの発掘・育成・強化

政策指針 04

2020年大会などで活躍できるアスリートを発掘し、育成・強化していきます。目標はオリンピック100人、パラリンピック25人です。アスリートの活躍は、子供たちがスポーツに対する夢や憧れを抱き、自らがスポーツに取り組むきっかけとなり、スポーツの裾野の拡大にもつながります。また、アスリートの経験などを地域スポーツに還元していく取組も進めていきます。